

どじょう違いの話

— 個性化教育としての生活科の実践に向けて —

事務局長 高浦勝義

人から聞いた話に「どじょう違い」の話がある。ある時、大学の先生が農村部にて「どじょう」(土壤)について一時間講演をされたそうである。聞き手は、夕食を普段よりは早目に済ませた農家の人たちである。先生は、聞き手は農作業の疲れもあり、夕食後でもあり。。。ということで、話題豊かに、興味深く、しかも分かり易くと、きっといろいろと工夫されたことであろう。そして、話の後に「何かご質問があれば」と問うと、一人が質問されたそうである。「貴重な話を有り難うございました。一つ聞きたいのですが。私の田んぼの辺に、背中に斑点のある見知らぬどじょうがいるのですが、何どじょうでしょうか。」と。

この先生は勿論のこと、土壤の話の分かった人は、きっとびっくり仰天されたことであろう。何しろ、「どじょう違い」が生じていたからである。講演者と質問者との間には、一時間中、ずっと行き違い、すれ違いが生じていたわけである。

私もこのような話をしているのではないか、とこの話を思い出す度に頭が痛くなる。そして、思うのである。こんな話は笑いですまされればよいのだが、もし、このようなことが普段の授業で生じているとしたら大変なことだ、と。

周知のように、新学習指導要領は、改訂の一つの大きな柱に「個性を生かす教育の充実を」とうたった。これまでの教育は、「追い付け型近代化」政策の下で、あまりにも知識の獲得競争に固一化した非(没)個性化教育を追及してきたとの反省があったからであろう。もっと言えば、大事なことは入試に備えてより多くの知識を獲得することである。それが、一人ひとりの子供の全的発達にどんな働きを及ぼすのか、子供の生活現実とどう結び付くのかといった、いうなれば知識の「質的」獲得は不間にされてきたとの反省があるのでないだろうか。現実に、「知ってはいるが使えない」

「学校と生活との分離」などといった声——つまりは、知識、そしてそれを教える教師のロジックと子供のロジックとのすれ違い——が図かれるのは、そのよい証拠であろう。しかし、個性を生かす教育=個性化教育の下では、ぜひともこの「すれ違い」をなくし一人ひとりの子供が知識と個性的に出会い、そして知識の個性的な創造者となるような教育を実現したいものである。

例えば、魚釣りに出かける。そうすると、釣れる日や場所もあれば、釣れない日や場所もある。しかも、それは釣ろうとする魚種にもよる。もし釣れないと言つて一回でやめれば、それっきりである。しかしどうしても、ということで(釣り好き)、このような失敗や成功の「経験」を重ねていくと、そのうちにやがて、こういう魚はこういう仕掛けでこういう時にこういう場所で。。。釣れるといった。一定の事物・事象の相互関連(手段—帰結関係)が把握されることになる。そして、そのように行動すると、今度は魚が釣れる。この確かめられた事物相互の手段—帰結関係を「知識」と考えたらどうであろうか。

今回、新設された「生活科」も、ぜひこのような個性化教育の方向でとらえ、実践したいものである。実際、その性格なり目的をみると、生活科ではいわゆる知識(社会認識や自然認識)はそれ自体目的ではなく、それらは常に子供の「生活」現実と結びつき、その「生活」の中に生きて働く道具、手段である。そして、その限りにおいて、子供が生活自立者となる基礎を築うことになる。眞の知識は個性的に創造さるべきもの。このような主張がみてとれるのである。これを、生活科は要するに社会科と理科との合科教科であるととらえるようでは、それこそ例の「どじょう違い」を生むことになるのではないか、と思われるのである。

第9回 全個教連関東地区研究会 開催

—個性化教育から見た生活科—

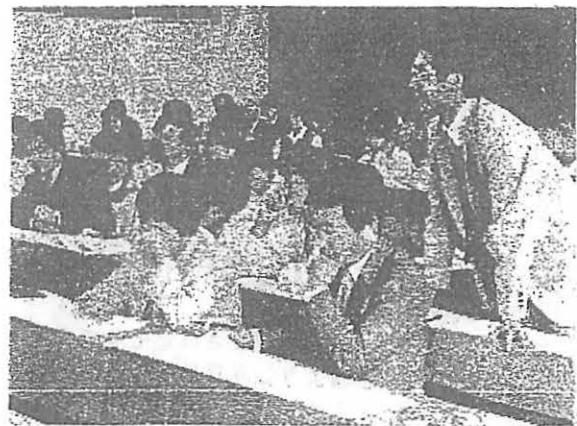
期日 平成元年6月11日 会場 上智大学

研究会参加者は小雨の中を全国各地から

研究会の参加者は、東京の34名を筆頭に、北は青森から、岩手、山形、新潟、福島、栃木、群馬、茨城、埼玉、千葉、神奈川、山梨、愛知、富山、三重、福岡と、そして南の沖縄まで、39名にも達した。

研究会内容

1. あいさつ 松崎二葉副会長
2. 生活科を志向した総合学習・合科学習の実践報告
司会 目黒区立中目黒小学校長 行徳高徳先生
 - ・目黒区立宮前小学校教諭 腹崎えり子先生
　　1・2年「しぜんとなかよし」
 - ・大磯町立大磯小学校教諭 池田伊三郎先生
　　2年「わたしたちの町をしらべよう」
 - ・台東区立根岸小学校教諭 等々力美津子先生
　　2年「おまつりをしよう」
 - ・質疑応答
3. 「個性化教育から見た生活科」シンポジウム
司会 上智大学教授 加藤幸次先生
シンポジアン
 - ・目黒区立菅刈小学校教頭 志茂暁子先生
 - ・愛知県上野中学校教諭 成田幸夫先生
(前愛知県緒川小学校)
 - ・千葉県総合教育センター 坂地澄夫先生
 - ・国立教育研究所室長 高浦勝義先生
4. 閉会の言葉 高浦勝義事務局長



午前中、3名の先生方より先進的な実践の発表があり、午後はシンポジウムが開かれた。

生活科を志向した総合学習・合科学習の実践では、宮前小の子供たちの発想を生かして自然に親しませた学習、大磯小の地域の商店を調べていく活動を通して生活に必要な習慣や技能を養った学習、根岸小の下町という地域性を生かし子供たちが自分たちのお祭りを作りあげた学習が紹介された。発表には、ビデオが効果的に使われ、子供たちの生き生きと活動している様子がモニターから流された。

シンポジウムでは、志茂先生から、子供の気持ちを大事にし、「その気にさせる」ことが大切であることや、子供の夢や願いをかなえる先生でありたいという話があった。

また、高浦先生より、生活科は社会科・理科の合科教科ではない。個性豊かな生活自立者を育てるために生まれた新教科だ。知識は、目的ではなく子供の自立のための手段と考えること、成田先生、坂地先生より、それぞれの実践内容の紹介や反省、生活科を実践するにあたっての単元の設定についてなど、具体的な話があった。

参加された先生方からも、総合学習の時間の取り方、地域とのかかわり方など、現実的な質問が多数出された。助言者からは、指示された単元を忠実に展開するのではなく、その地域にあった内容を積極的に実践していくほしいという願いが述べられた。



〈参加者の声〉

初めて全個教連に出席したので、「個性とは…」という疑問の段階です。実際に生活科をあつかわなければならぬ立場として、①一人ひとりに活動がうつるので、進度がバラバラになっているものを、時間的な問題で途中で打ち切るか②一人ひとりと集団の力との関係③一人ひとりの身についた力を、どれだけ見取れるのか。——学ぶ力、自立する力を養うためには、教科の内容、教えるべきことがらを少なくすることが（切り捨てる）必要と強く感じました。

新潟県 和納小学校 信田美智子先生

「連續性」ということが気になりました。自立、自己教育力の面でも、各学年ごとに一人ひとりの子に段々と身につけさせてやらなければならないと思います。その中身は、①学習の方法を身につけさせる。②自己評価の方法を身につけさせる。（自分を知る力）③問題意識化（「こりゃ、このままじゃいかん。だからこうしよう。」というやる気を持たせる。）④想像力（他の立場に立つ。この先はどうなるか考える。）の4点だと思います。（他にあるかもしれないけれど…）これを発達段階を考えて学年目標化して、それぞれの子がどの内容を身につけているか、次年度におくらなければならないと思います。

問題は、それぞれの活動の中から身につけた教科的な知識・基礎をも、次年度にカルテとし、もちあげなければなりません。その点を教師がいちいち発見・認識し、だれにでも使いうるよう、共通化させることは、非常に大変だと思います。

山梨県 竜王東小学校 内藤和久先生

どうもありがとうございました。

大学の机・教室がなつかしかったです。

でも、発表者やパネラーと壁ができてしまっているよう、ふつうの研修会・講演会とあまり変わらないように感じました。休けいや昼食の時に輪を作り、話し合っていた内容の方が、具体的でわかりやすいものでした。

全個教連のセミナーなのですから、広い部屋でお茶でも飲みながら、リラックスしたふん囲気の中でセミナーができたら、楽しいのではないかと思いました。（一般の参加者の中には、いろんな考え方の方がいらっしゃるので、むずかしいかもしれません…）

H. Y. 先生

研究発表会のご案内

くわしくは、各学校にお問い合わせの上、ご参会ください。

期日 平成元年10月25日（水）
会場 山形県 寒河江小学校
TEL 0237-86-4235

期日 平成元年10月27日（金）
会場 神奈川県 大磯小学校
TEL 0463-61-0140
※授業公開のみ

期日 平成元年10月31日（火）
会場 山形県 富沢小学校
TEL 0233-45-2811

期日 平成元年11月7日（火）
会場 愛知県 七宝中学校
TEL 052-444-2051

期日 平成元年11月14日（火）
会場 山梨県 竜王東小学校
TEL 0552-79-3431

期日 平成元年11月16日（木）
会場 富山県 福沢小学校
TEL 0764-83-1857

期日 平成元年11月18日（土）
会場 長野県 下氷泡小学校
TEL 0262-84-3028

期日 平成元年11月22日（水）
会場 山形県 南平田小学校
TEL 0234-52-2009

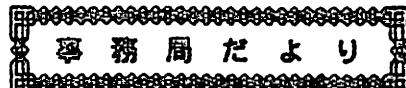
期日 平成元年11月24日（金）
会場 福島県 川俣小学校
TEL 0245-66-2022

期日 平成元年12月1日（金）
～2日（土）
会場 愛知県 緒川小学校
TEL 0562-83-2034
※東海個性化教育研究会

期日	平成元年12月 5日(火)
会場	福島県 岩江小学校
TEL	0249-56-2120
期日	平成元年12月 8日(金) ～9日(土)
会場	長崎県 比田勝小学校
TEL	09208-6-2238
※	対馬個性化教育研究会
期日	平成2年 1月26日(金)
会場	東京都 宮前小学校
TEL	03-718-5506
期日	平成2年 2月 3日(土)
会場	福岡県 久原小学校
TEL	092-976-0008
※	九州個性化教育研究会
期日	平成2年 2月 9日(金)
会場	愛知県 卯ノ里小学校
TEL	0562-34-7977

研究会・研修会のご案内

第5回夏季研修会	
テーマ	「新学習指導要領と個別化・個性化教育のあり方」
期日	平成元年 8月23日(水) ～25日(金)
会場	愛知県東海市勤労センター
申し込み先	緒川小学校内東海個性化教育研究会事務局 TEL 05628-3-2034
※	申込書が連盟事務局にあります。
第10回関東地区研究会	
テーマ	「個性化教育における評価」 ——エリオット・アイスナー氏 と語る——
	(スタンフォード大学教授) (全米教育学会副会長) (世界美術教育学会会長)
期日	平成元年11月19日(日)
会場	上智大学



新事務局でスタートして3か月、「個性化教育から見た生活科」研究会も大盛況で、事務局一同ほっとしているところです。

現在、約400名の会員の確認作業もなんとか終え、会の名簿発行の準備を進めています。会誌「個性を育てる」の第3号も編集集中で、夏には出せそうです。会報も、今後は年3回以上発行していきたいと思っています。

お願い

本会は、主な活動として、会報・会誌の発行や研究会・研修会の計画・運営などを行っていますが、それらの費用は、すべて会員の皆様の会費によって賄われております。まだ会費を納入されていない方がありましたら、ご面倒でも、至急納入していただくようお願いいたします。

会費の納入はお手数ですが、郵便局より郵便振替をご利用ください。事務処理システムの変更により、現金書留などでは受け付けしておりませんので、ご協力をお願いいたします。

口座番号 東京0-194394
加入者名 全国個性化教育研究連盟

（新入会のお問い合わせ）
〒115 東京都北区赤羽南1-16-2-504
事務部長 佐久間茂和
TEL 03-903-4780

この会報は、会員の皆様に最新の情報を届けるとともに、会員同士の意見発表の場としても活用していきたいと思います。会への要望や個別化・個性化教育に関するお考えなど、どんなことでも結構です。広報担当までお寄せください。

（事務局への問い合わせ・連絡先）
〒236 神奈川県横浜市金沢区泥塗2-3-1-203
事務局長 高浦勝義
(自宅) ☎ 045-783-7497
(国立教育研究所) ☎ 03-714-0111
〒114 東京都北区田端1-10-2-201
広報担当 望月桂二
TEL 03-822-1366